



日本海

日々の様子は学校
ホームページから！



「藤塚小ブログ」は連日更新中！

相手の気持ちを考えた言葉

校長 山田 耕世

巻頭言では、基本的にその月の全校朝会で子どもたちに伝えた話を掲載しています。その理由は、子どもたちに伝えた話を保護者や地域の方々にも分かっていたくことにより、学校、家庭、地域で同じ方向に向かって、かけがえのない子どもたちを育てていきたいからです。7月の全校朝会では子どもたちに以下の話をしました。

～こんな時、あなたならどんな言葉をかけますか？～

【場面1】

次郎さんの失敗で、次郎さんのサッカーチームは負けてしまいました。次郎さんは同じチームの友達から何と言われるか心配でたまりませんでした。でも、次郎さんは笑顔で家に帰ることができました。同じチームの友達は、次郎さんにどんな言葉をかけたのでしょうか？

【場面2】

ひろしさんのクラスには、授業中、ルールをやぶってタブレット端末で遊んでいるたけしさんという人がいました。ひろしさんは、たけしさんのことが怖くてなかなか注意ができませんでした。でも、ある日、勇気を出して注意をしてみたら、たけしさんはタブレット端末で遊ばなくなり、ひろしさんとたけしさんは、少しずつ仲良しになりました。ひろしさんはどのように注意したのでしょうか？

これらの場面に対して、多くの子どもたちが「自分ならこうする」と自分の考えを伝えてくれました。それらすべての考えは、どれも「相手の気持ちを考えた言葉」でした。

ただし、実際の学校生活では、「相手の気持ちを考えた言葉」とは考えにくい言葉を友達から受け、悲しみ、傷付いたことがある子どもたちもいます。

- ・「〇〇さんに『キモイ、あっち行け』って言われてすごく嫌でした。悔しかったです。」
- ・「わざとでなかったのに□□したら、〇〇さんたちに、強く責められて、もう学校に行くのが嫌です。」

など

一方で、以下のような言葉を、多くの子どもたちから実際に聞いたことがあります。

- ・「〇〇さん、大丈夫？何か困ったら、言って。」
- ・「〇〇さん、授業中ふざけるの、もうやめよう。みんなが困るから。」
- ・「みんな、授業の時間になるから、席に座ろう。」

など

これらの言葉は、どれも「相手の気持ちを考えた言葉」です。「安心感や前向きな気持ち

が生まれる言葉」です。これらの言葉を使っていくためには、「この言葉を言ったら相手はどう思うかな？」と想像力を働かせていくことが重要です。言葉がもつ力はとても大きな力です。以前、「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」について学校便りの巻頭言でお伝えしました。今後も、子どもたちを取り巻く私たち大人の言葉を今まで以上に大切にし、どの子どもも、想像力を働かせながら「相手の気持ちを考えた言葉」を使っていけるようにしていきたいと考えております。

1学期も保護者や地域の方々がたくさんお世話になりました。ありがとうございました。